

リバイバル研修 (zoom) のご案内

2020年度秋に実施しました各種研修会・報告会が大変好評で、再度の研修を希望する声をもとにリバイバル研修を企画しました。法人経営に求められる財務管理・労務管理の力、現状を分析し経営改善に結び付ける力。その経営力向上を全国会議ならではの民主経営を追求する視点で取り組んだ研修内容となっています。まだ、受講されていない方のご参加をお待ちしています。

■研修一覧

リバ研日程	研修名 (既実施日)	研修内容	講師・報告者
1/14(木) 13:30 ~16:30	財務管理研修・基礎編 (9/16)	・経営組織の在り方 ・求められる管理能力 ・会計業務のポイント ・決算書類の読み方、分析	税理士 山本匡人氏 (大阪中央会計事務所)
1/21(木) 13:30 ~16:30	財務管理研修・応用編 (10/21)	・中長期的な経営視点、財務管理 ・目標の進捗と最新状況をつかむ 月次の財務管理	
1/28(木) 13:30 ~16:30	経営実態調査報告会 (11/27)	全国会議の経営実態調査、意識調査、決算書の分析結果報告、個別決算分析の見方	全国会議事務局 堤昭子氏 総合社会福祉研究所 高倉弘士氏 調査研究部会 皿海みつる氏 税理士 山本匡人氏
2/15(月) 13:30 ~16:30	労務管理研修 (12/9)	・働き方改革関連法による主な改正 ・年5日の年次有給休暇義務 ・時間外労働の上限規制 ・雇用形態に関わらない公正な待遇を確保 均衡待遇と均等待遇の判定要素は？同一労働同一賃金ガイドラインは	特定社会保険労務士 井村佐都美氏

★録画した講義を編集し配信します。

■申込み方法 (申込フォーム)

1/14 財務管理研修(基礎編)

1/21 財務管理研修(応用編)

1/28 経営実態調査報告会

<https://forms.gle/cmqaqkLrfPd5QzXF6>

2/15 労務管理研修

<https://forms.gle/iPhGyLFxTApqxsVw8>



●受講料 (1 講義)：一般お一人 5,000 円
全国会議会員お一人 2,500 円

受講料の入金確認後、ZOOM ミーティング URL と資料をメールでお送りします。

●振込先：ゆうちょ銀行

振替口座 00930-4-196543

口座名義 社会福祉経営全国会議

まとめた振込可 (通信欄に「受講日」「研修名」と「受講者の氏名」をお書きください。)

■問い合わせ先：一般社団法人 社会福祉経営全国会議

〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902 TEL06-6772-1360 FAX06-6722-1376

Eメール jimukyoku1@f-zenkoku.net



●受講者の声をご紹介します(感想アンケートより)

財務管理研修

- ・ここまで細かく説明があるとは思わず、非常によかった。
- ・社会福祉法人会計も損益計算書に近づけられていることを改めて感じました。国庫補助金等特別積立金の勘定科目も絶滅危惧種でしょうか。
- ・必要な積立額を決めて、残りのお金で支出、長期修繕計画書を作成すること、将来的な地域需要を想定しての建物建築など参考になりました。
- ・応用編のみの参加でしたが、政府の動向も踏まえての将来展望を示していただき勉強になりました。①人口減少、縮小型も可能に、流動的に変えられる事業
- ②予算は逆算型で中長期事業計画に基づく積立金を設定するなど、小規模ながら今後の計画に非常に参考になりました。
- ・日次決算のように1日ごとに締める意識が大切で、月次決済で財政の安定化を図る。安易に補正しない、補正の理由を求めることを行いながら予算の達成にこだわりを持つ。会議のあり方を見直し、コスト意識と成果を上げるバランス意識が必要だという視点が大切だと思いました。
- ・今回の財務管理研修は大変身になる内容でした。復習をしたいのですが、録画を視聴することは可能でしょうか。

経営実態調査報告会

●A 票分析報告について

・業種・法人規模別に、法人が重要だと考える課題の傾向がはっきり分かれていると感じた。自分の所属する規模や業種で主観的にとらえるるととても共感でき、また、業種や規模が違っていても、さまざまな法人の抱える課題が、やはり重要な課題の一つに含まれていたと感じている。課題を共有し、解決のための情報共有や事例の発表などが今後展開されていくと、小規模法人の当法人はとてもありがたく思う。

●B 票分析報告(高倉氏報告)について

・人材確保が厳しい中で、いかに業務の省力化や効率化を図るのか等、他法人の取組の傾向を知ることができた。同法人も同様に、派遣・紹介料等の多額の支出が課題になっていること等・・・。コロナ禍での収入比較について、「いいえ」が40%となっているが、各法人・施設の多様な努力によるものであること。数字だけを見られると「影響は少ない、報酬を引き上げる根拠が見当たらない・・・」と国等に悪用される心配がある。

・当法人は保育事業のみですが、地域ニーズに応えるために他分野の事業展開も必要であると考えています。分野ごとのict化の影響などを掴むことができ参考になりました。自由記述のワード数やワードの相関関係による分析はすごいです。



●B 票分析報告(皿海氏報告)について

①皿海氏の報告により、国が示した大規模法人合併の「根拠理由」が今回のアンケート集約結果分析によってその脆弱性が指摘され、逆に本当の狙いが地域福祉ニーズに対する社福法人による自助、互助にあることが明快に示された。②規模の大きな法人は、本部機能や労働条件、研修機能が小規模よりも良いが、正規・非正規とも離職率が小規模より高いことが指摘されたが、これは当福祉会にも当てはまる。大規模法人において、法人・事業所帰属意識をいかにして高めるのか、全国の共通した悩みを抱える法人とも連携して深めていきたい。③法人間連携を一概に否定するのではなく、全国会議に結集する民主的な社会福祉法人同士が地域単位の交流・連携を強め研修や人材確保等において、一法人ではなし得ない効果を追求することは大いに必要ではないか。今後、全国会議の地方組織、地域組織の在り方と合わせて検討を期待する。

・効率化や生産性を重視する大規模法人化は反対です。大規模・小規模の状況やそれぞれの強み・弱みを捉えて上で共同や連携を行い、しっかり事業をすすめ、対抗していきましょう。

業界平均と比して当法人の離職率は低いと認識していましたが、この調査の中では決して低くない、非正規は高いことがわかり、課題としてしっかり捉えたいと思います。

●決算財務分析報告について

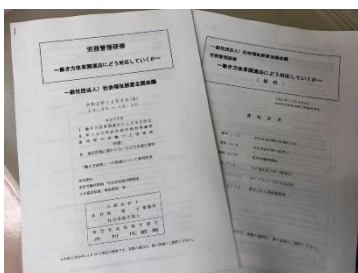
・限られた時間内であったが、ポイントがよく抑えられとても分かりやすい報告・説明であった。なかでも総資本利益率とともに回転率も総合的に把握分析することの大切さを学んだ。当地域では少子高齢化が急速に進み、当福祉会の事業利用者の延べ利用数がかここ数年伸び悩んでいる。日中系事業所のそれが山を越え減少傾向に転じ、グループホーム増設による延べ利用者の増加で合計数は変わらず。この傾向は今後5年、10年後はより顕著になる。借入金をしながら老朽施設を改修、ホームを建設せざるを得ず、その際の数値による基準は法人財政の見通しを図るうえで参考になった。

・経営実態調査は初めての参加でしたが、自法人の分析がより深められ他法人の分析結果等から経営状況の比較もできるなど、自力ではできない情報を得ることができました。直近の方策や当法人中長期経営計画の財政計画を補完していきたいと思えます。

・報告もわかりやすく、資料も丁寧でとても勉強になりました。また、法人ごとの分析結果も報告いただき、自法人の弱み、強化していかなければならない点など見えてきました。これから補助金等も減られ、委託費や介護報酬も引き下げられていく中、事業を増やすことは危険であり、借財を極力抑え、事務費を見直していくことを真剣に考えていかなければいけないと痛感しました。



労務管理研修



- ・均衡待遇・均等待遇の内容がよくわかり理解することができました。来年度に向けての契約更新の時期を迎えるにあたり、準備して臨むことができます。また、園内での職務分担についても考えるベースが作りやすくなりました。
- ・日常の業務は同じでも、中核的業務の責任というところでは正規とは同等ではないという事がわかり、すっきりした気持ちになりました。保育現場は非常勤、パートさんに助けられて成り立っている点が大きいので、正規職員の処遇だけでなく非常勤、パートさんの処遇も改善できるように考えていきたいと思っていました。フルタイムの非常勤さんには毎月資格手当を支給するようになり、前進していますが、扶養手当を支給している法人もあるとの事、参考になりました。
- ・今年度より管理職となったため、働き方改革について何となくわかっているといった状態でしたが、根本的なところがしっかりと理解できました。事前質問に書いてある内容を同じように抱えており、どこも課題は似ているなど感じました。